

## 11月4日のウクライナ情報

安齋育郎

### ①サウジ、イスラエルのガザ難民キャンプ爆撃を「最も強い言葉」で非難(2023年11月1日)

【11月1日 AFP】サウジアラビアは1日、イスラエルがパレスチナ自治区ガザ地区(Gaza Strip)最大の難民キャンプを爆撃したことを「最も強い言葉」で非難した。

爆撃では少なくとも47人が死亡した。イスラエルはこの爆撃で、ガザ地区を実効支配するイスラム組織ハマス(Hamas)の司令官を殺害したと主張している。

サウジアラビア外務省は X(旧ツイッター)に「サウジアラビアは、包囲されたガザ地区にあるジャバリア(Jabalia)難民キャンプを標的にし、多数の罪のない民間人を死傷させるという非人道的行為を最も強い言葉で非難する」との声明を投稿した。(c)AFP

サウジアラビア外務省は X(旧ツイッター)に「サウジアラビアは、包囲されたガザ地区にあるジャバリア(Jabalia)難民キャンプを標的にし、多数の罪のない民間人を死傷させるという非人道的行為を最も強い言葉で非難する」との声明を投稿した。(c)AFP

サウジアラビア外務省は X(旧ツイッター)に「サウジアラビアは、包囲されたガザ地区にあるジャバリア(Jabalia)難民キャンプを標的にし、多数の罪のない民間人を死傷させるという非人道的行為を最も強い言葉で非難する」との声明を投稿した。(c)AFP



<https://www.afpbb.com/articles/-/3489160?pid=26208143>

### ②NATO 支援にもかかわらず、ウクライナは敗北し続けている = ショイグ露国防相(2023年11月2日)

北大西洋条約機構(NATO)から新型兵器の供与を受けているものの、キエフ政権は敗北し続けている。たとえ西側諸国がウクライナにF16戦闘機を供与したとしても、ロシアの防空システムは約20日以内にそれらをすべて撃墜できるだろう。ロシアのショイグ国防相がテーマ別電話会議で語った。

#### 特別軍事作戦ゾーンの状況について

ショイグ国防相によると、ウクライナ軍はNATOから兵器を供与されているものの敗北し続けている。一方、ロシア軍はしっかりと防衛を保っているという。

「NATOの新型兵器が供与されているにもかかわらず、キエフ政権は敗北し続けている。一方、ロシ

ア軍は積極的な防衛を続け、敵に対して火器による効果的な打撃を与えている」

セルゲイ・ショイグ(ロシア国防相)

またショイグ国防相は、ウクライナ軍はザポロジエ、ドネツク、ヘルソン方面で攻撃を試みているがうまくいっておらず、これはウクライナ軍に多大な損失をもたらしているとし、その結果、ウクライナ軍の兵力は枯渇し、士気喪失の度合いが高まっていると指摘した。

なお、ロシア部隊は前進し、より有利な戦線や陣地を構えているという。

### F16 に対するロシアの防空システム

ショイグ国防相はまた、ロシアの防空システムは先月 10 月に 37 機の航空機を含む 1400 以上の敵の航空攻撃手段を破壊し、効果的に稼働していると指摘、したがってロシアの防空システムは西側諸国がウクライナに約束した F16 戦闘機すべてを 3 週間以内に撃墜できると強調した。

「航空機 37 機はウクライナへの供与が保証、約束されている F16 航空機の約 2 倍の数あることを指摘したい。つまり、我われの防空システムがそのように稼働した場合、これは約 20 日間の作業となる」

セルゲイ・ショイグ(ロシア国防相)



<https://sputniknews.jp/20231102/nato-17590283.html>

### ③日本在住のパレスチナ人の経験(2023年 10 月 31 日)

日本在住のパレスチナ人の友人のもとに「今回のことを受けて」取材の依頼が来ているそうです。友人は「自分の家族がパレスチナでどんな目に遭ったか、そういう話もきちんと取り上げてくれるなら」と答えると「それは社で相談してから」と言葉を濁され、結局「その部分は取り上げない」と言われると。

どんな「事情」や「忖度」がそれらの裏に働いているのか、わたしにはわからないけれど、悔しそうな友人の姿に胸が痛い。わたしは、そのことを伝える。絶対に。「なかったこと」にされてたまるか。

11/5 の東久留米でのトークでは絶対にこの話も入れる。「10/7 の始まり」よりずっと前から、絶え間なく続いている民間人への理由のない迫害、それが日常のなかで自分たちの生活圏のなかでいきなり起きること、その苦しみ、哀しみ、そういうことを「文脈に合わない」と「なかったこと」にされてたまるか。

いよいよ今度の日曜日 11/5 緊急開催。開催の話が出た頃には「開催日には攻撃終わっていて、来

場者もまばらだったりしたら、むしろいいのになあ」なんて考えていたけど、「停戦」の気配もなく日々民間人が殺され続けていることを、どう考え、なにを話したらいいのだろうと、悩みは深まるばかりですが。

上記のパレスチナ人友が気に入ってくれているのは写真集『Bokra 明日、パレスチナで』。今日友がお友達に写真集を見せていて、なんとその方はその場でご購入くださった。いま自分は平常心では見られないような「希望を込めた」ちいさな写真集。友の心のなかの「希望」を思う。



<https://twitter.com/mikairvmest/status/1719343366880805305?s=09>

#### ④ガザ襲撃計画、変更か？(2023年11月2日)

イスラエル占領軍のラジオは少し前に緊急ニュースとして、陸軍参謀本部がガザ襲撃計画を抜本的に変更することを検討していることを明らかにし、現地の状況が厳しいことを認めた。



<https://twitter.com/QudsNen/status/1719756251934957732?s=09>

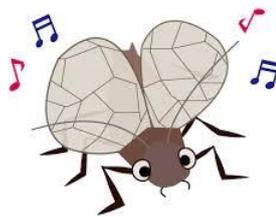
## ⑤障害を持つパレスチナ人がイスラエルの検問所に投石(2023年11月2日)

彼らは彼を射殺した。

<https://twitter.com/i/status/1719854418361974933>



<https://twitter.com/soraotobitai777/status/1719854418361974933?s=09>



## ⑥伊首相がロシアからのイタズラ電話にひっかかる、ウクライナ危機解決に向けて「秘策ある」と発言(2023年11月2日)

ウクライナ軍は期待されていた反転攻勢で成果を上げられなかったことから、交渉により紛争を解決する必要がある。アフリカ連合の高官を装ったロシアのタレントら(ヴォバンとレクサス)によるいたずら電話でイタリアのジョルジア・メローニ首相がうっかり発言した。会話はタレントらのテレグラム・チャンネルで公開された。

イタリア政府はロシアからのいたずら電話に首相が応じてしまったことを認めている。政府によると、この会話は9月18日に行われたという。9月19日から21日にかけて首相は国連総会の一環でアフリカの指導者らと会談を重ねていた。

メローニ首相は電話の中で、「ウクライナ軍の反転攻勢は彼らの期待通りには進んでいないかもしれない、実施はされているが、根本的には何も変わっていない」と発言した。

首相によると、西側がウクライナ紛争の終結に向けて解決策を講じない限り、紛争は長期化する可能性があるという。

首相は「多くの人が疲れているのはわかります」としたうえで、「実を言うと、おそらくは誰も解決策が必要であると理解する瞬間に我々は近づいているのです」と指摘した。そのうえで、国際法に違反しない形で双方が受け入れ可能な解決策を見つける時期に来ていると説明した。

さらにロシアとウクライナの間には存在する見解の違いを解決できるアイデアを持っているものの、これを提示する上で適切なタイミングを待っているとも発言した。

首相による失態を受け、ジュゼッペ・コンテ元首相はこのうっかり発言について「地球規模の失敗」と呼んだ。さらにウクライナ支援が無意味であることを理解しながら国民を騙し続けている首相の責任は重いとも批判した。



<https://sputniknews.jp/20231102/17595203.html>

## ⑦ウクライナ軍総司令官がロシア軍の戦略を高評価、「過小評価してはならない」 (2023年11月2日)

ウクライナ軍のヴァレリー・ザルジニー総司令官は英紙「エコノミスト」に発表した記事の中でロシア空軍と電子戦部隊を称賛し、「ロシアを過小評価すべきでない」と警告した。

総司令官によると、ロシア側は電子戦部隊を近代化しているという。総司令官は記事の中で、「この分野でロシアは我々より優れている」と指摘、ウクライナ側の妨害局は65パーセントがソ連時代に製造されたものだという。さらに新型無人機「ランセット」の貢献により、ロシアの対砲撃は改善されたとも分析している。そのうえで総司令官は「ロシアを過小評価すべきでない」と警告している。

さらに総司令官によると、ウクライナ側は現在、兵力不足に悩まされている。ウクライナ領内で予備役を訓練する可能性は限られているほか、国民が様々な手段で兵役を逃れているとも指摘。

これに先立ち、ウクライナ国家捜査局(SBI)は各地の入隊事務所に犯罪組織が存在すると報告していた。これらの組織は徴兵逃れのルートを構築し、これを利用して少なくとも100人の予備役が国外に逃れたとのこと。

総司令官はエコノミストのインタビューで、戦線は膠着し、ウクライナ軍はロシア側の防衛ラインを突破できないとまで記している。当初は「どう計算しても」ウクライナ軍は4カ月以内に「クリミアに到着し、クリミアで戦闘し、クリミアから帰還する」はずであったにもかかわらず、進展はなかったという。ウクライナ軍は地雷原で立ち往生し、そうこうするうちに西側から供与された兵器がロシアの大砲で次々と撃破されたとのこと。

司令官は記事の中で、「私は当初、指揮官に何か問題があるのではないかと思います、何人かを交代させた」と指摘、それでも状況は改善しなかったことから「我々の兵士がダメなのだろう」と結論付けた。

先にタイムズ紙はザルジニー総司令官とウォロディミル・ゼレンスキー大統領の間で作戦を巡り意見の対立が起きていると報じていた。総司令官は反撃を終了し、現在の陣地を維持して翌年の作戦に備える必要があると主張している一方、ゼレンスキー大統領はこれに同意しておらず、作戦の継続を求めている模様。



<https://sputniknews.jp/20231102/17595431.html>

## ⑧【人物】ロシアで活躍する日本人女優 人生の深みを伝える一人芝居をモスクワで上演中、台詞は全てロシア語(2023年11月2日)

ロシアで女優として活躍する折田智水(おりた・ともみ)さん。日本とロシアで演劇の教育を受け、両国の舞台で活躍してきた彼女は今、一人芝居をメインにモスクワで舞台活動を行っている。ロシア語で一人芝居をするという挑戦的な作品ができたきっかけや、今シーズンの意気込みについて話を聞いた。

折田さんがロシア演劇に興味を持ったのは、ロシアの劇団が日本で行った公演を見たことがきっかけだった。夢中になった折田さんは、旅行で初めてモスクワを訪れ、毎日劇場に行き様々な演目を鑑賞。すでに日本で女優として活動していたが、ロシアの劇場文化に魅せられた折田さんは、ロシアの名門である国立舞台芸術大学に入学し、演技を学んだ。その後はモスクワの劇団「アパルテ」など、多くの舞台で活躍した。

現在折田さんは独立し、一人芝居「あなたが島だったら」(When you're an island)に取り組んでいる。この作品は2018年から2019年にかけて、「ロシアにおける日本年」「日本におけるロシア年」が開催されることをきっかけに考案された。当時の折田さんは、能楽作品「卒都婆小町」にインスピレーションを受けており、かつては絶世の美女として多くの男性から求愛を受けた小野小町が、老女になった姿を演じてみたいと考えていた。

そこでロシア人脚本家にリクエストをすると、卒都婆小町の要素も含めつつ、ひとりの日本人女性がロシアで生きていくという、これまでにない物語ができた。そこで描かれるのは、家族や友人、恋人との関係、それを通じた主人公の心の変化という、普遍的なテーマである。

一時間半の芝居で折田さんは、ロシア語のみで演技する。「ロシアにおける日本年」では、地方公演が多く、他の演目との兼ね合いもあって一時間以下の短縮バージョンを演じていたが、昨シーズンは毎月、一時間半の完全版を演じてきた。演技する時間がそれだけ長くなると、ロシア語の台詞を間違えないようにするだけでも大変なことだ。

折田さんは「これまでは、台詞のことで精一杯になってしまっていたと思います。この作品では、ロシア人と日本人のメンタリティの差異に注目されがちですが、それだけではなく、人間関係での悩みだったり、それを通じた内面の成長など、人間の持つ共通性、普遍性についてもっと伝えられるように

したい」と意気込む。

10月17日、今シーズン初の舞台が行われた。夏休みの間、日本での充電期間があったため、普段と比べるとかなり緊張したという折田さん。

「まずは第一回を終えてほっとしました。普段緊張しないだけに、余計にこの緊張に対してどう対処していいのかわからず、少し不満が残った部分もあったので、今回はさらに頑張ります。いつもそうなのですが、観客の方が温かいです。会場の優しい雰囲気、私の演技を大きく受けとめてくれます。次回以降は万全の自信を持って、舞台に臨みたいと思います」

折田智水さん(女優)

舞台を見た IT 技術者のウラジーミルさんは、「私のようなロシア人にとって、日本人女性の心の機微、ロシア人の恋人との関係において彼女が何を感じるのか、というのは大変面白いポイントでした。しかも、恋人との関係だけでなく両親や女友達との関係を通して、人生において大事な多くのことを考えさせられる話でした」と感想を述べた。

日本の文化を、アニメ以外全く知らない状態で見に来たというナタリアさんは「そもそも一人芝居というのも初めてで、一人の演技者が、こんなにも様々な形でそれぞれのシーンに深く入り込めていけることに驚きました。人生においてたくさんの方が起こるけれども、それを通してヒロインの大きくて深い内面世界が見えたように思います」と話してくれた。

年内の舞台は11月9日と12月14日。ともにモスクワ市内の文化センター「ZIL」で行われる。



<https://sputniknews.jp/20231102/17595203.html>

## ◎ロシア外務省、西側の偽善をクリアに指摘(2023年11月2日)

ロシアは昨年9月、国連との合意の下、ラトビア、エストニア、ベルギー、オランダの港で凍結されていたロシア産肥料26万2千トンをもっと貧乏国に無償供与することを申し出た。

しかし、現在までにロシアの好意を受け取ったのはマラウイ(2万)とケニア(3万4千)のみ。ナイジェリア(3万4千)、ジンバブエ(2万3千)、スリランカ(5万5千)向けは、発送準備が整っているにも関わらず、行政レベルで手続きが妨害されているらしい。

肥料の所有者であるロシア企業は、多額の税金、倉庫保管料、チャーターや積み替えなど物流サー

ビスに係る費用の支払いをさせてもらえず、制裁を理由にのりくらりと嫌がらせを受けている。ロシア企業は今だに国連仲介料！を負担しているようだが、こちらは全く役に立たないサービスのようだ。

そして、西側がロシアに対する制裁ゴッコに興じている間、当の最貧国は苦しんでいる。こうした状況につき、ロシア外務省は「西側の偽善」と断罪、「ロシア産肥料を不法に所持せず、さっさと然るべき国に人道物資が届くよう全力で取り組み」と締め括っている。

因みに、残りの9万6千トン、ラトビア、エストニア、ベルギーの港に不法に取り押さえられたままとなっている。その80%を保有するのがラトビアだ。この小国はすっかり反ロシアの尖兵に仕立て上げられてしまった。



[https://twitter.com/jupiter\\_russia/status/1719882087384129595](https://twitter.com/jupiter_russia/status/1719882087384129595)

## ⑩「全員死んだ！」イスラエルがガザ南部を攻撃し、数十人が死亡(2023年10月11日)

ガザ地区はイスラエル軍によって封鎖され、その住民(約230万人のパレスチナ人)は隣人の怒りを最大限に感じている。

<https://youtu.be/XY3t80-vCJY>



<https://www.youtube.com/watch?v=PeuNRaNGQr8>

## ①【2 日のニュース】邦人含む外国人、ガザから退避 レオパルト破壊の瞬間、露国防省が公開(2023 年 11 月 2 日)

世界では毎日様々な出来事が起こっている。ここでは今日の国際ニュースをダイジェストでお届けする。

### イスラエル・パレスチナ紛争

#### 外国人の退避進む

イスラエルの攻撃が続くパレスチナ・ガザ地区から、日本人を含む外国人らの退避が始まった。日本政府は 2 日、現地に滞在していた日本人とその家族計 18 人がエジプトとの境界にあるラファ検問所を通じてガザ地区から退避したと発表した。

1 日にはラファ検問所を通じて、外国籍保持者 345 人とけがをしたパレスチナ人ら 76 人がエジプトへ退避していた。また、2 日以降も退避は続くと思われ、ガザ当局は 400 人の米国籍保持者が近く脱出する見込みだと発表した。

#### 続く戦闘、増える犠牲

イスラエル軍はガザ北部でハマス部隊らとの直接戦闘が始まったと発表した。同軍は「数十人のテロリスト」を殺害したと主張している。

また、イスラエル軍がガザ最大のジャバリヤ難民キャンプを再び攻撃したと報じられた。ハマス側は計 195 人が死亡し、約 800 人が負傷したとしている。

ハマス保健省は、これまでにイスラエル軍の空爆による死者が 8000 人以上に上ったと発表している。

#### ガザ作戦に正当性なし = 露国連大使

ロシアのワシリー・ネベンジャ国連大使は、イスラエル・パレスチナ紛争に関する安保理緊急会合で、イスラエルの安全保障の権利を認めながらも、現在ガザで行われている作戦については正当性はないと主張した。

「彼ら(編注:西側諸国)はイスラエルの自衛権を根拠にしているが、占領国であるイスラエルにはそのような権利はない。このことは 2004 年の国際司法裁判所の決定でも示されている」

ワシリー・ネベンジャ(ロシア国連大使)

004 年の国際司法裁判所決定では、イスラエルの分離壁建設による占領政策は国際法に反し、パレスチナ人の民族自決権を損なうものとする勧告的意見が出されている。

### ウクライナ情勢

#### レオパルト破壊の瞬間

ロシア国防省は 2 日、ザポロジエ 方面でウクライナ軍が運用する独製戦車レオパルトを破壊した映像を公開した。

<https://twitter.com/i/status/1719982408622125162>



### ウクライナ軍総司令官「ロシアはあなどれない」

ウクライナ軍のヴァレリー・ザルジニー総司令官は英紙「エコノミスト」に発表した記事の中でロシア空軍と電子戦部隊の戦略を称賛し、ロシア軍を「見くびってはならない」と警告した。

ザルジニー総司令官によると、ロシア空軍は依然として優勢で、空からの攻撃を継続しているほか、ロシア側は電子戦部隊を刷新しているという。一方、ウクライナ側は兵力不足に悩まされていると明かした。

### 米国、ICBM 実験に失敗

米空軍は1日、カリフォルニア州で大陸間弾道ミサイル(ICBM)・ミニットマン3の実験を行った際、発射後に「異常」を検知したため太平洋上で爆破したと発表した。実験は失敗したものの、ICBMの即応態勢を維持するために必要なデータが得られたとしている。

米国防総省は、ICBMの発射実験は米国の核戦力の準備態勢をデモンストレーションするために行ったとしている。一方、「実験は定期的なもので、数年前から実施が決まっていた」とも指摘した。

今回の実験は予め計画されていたものであるとはいえ、そのタイミングはロシアが戦略抑止兵器の演習を行ったり、包括的核実験禁止条約の批准撤回を決めた直後だった。露軍事専門家のアレクセイ・レオンコフ氏は「米国にとって実験は、核保有国としてのステータスを維持するために必要不可欠だった」との見方を示している。

「米国の動きには、ロシアの実験に対する『対抗』という側面もある。つまり、米国は自らの核戦力に問題はないと見せつける必要性にかられているのだ」

アレクセイ・レオンコフ(露軍事専門家)



<https://sputniknews.jp/20231102/2-17598325.html>